

県内で最も早い木市「あいら木市祭」



1月10日・11日の2日間、吾平町麓の鶴戸神社前から吾平町商店街約300mを歩行者天国にして県内で最も早い木市「名物あいら木市祭」が開催されました。
当日は植木や苗木、地元特産品など商店街や市内外から約60店舗が出店。
また、歌謡ショーやお楽しみ抽選会なども行われ、市内外から訪れた多くの買い物客が早春の風物詩である木市祭を楽しんでいました。

新春名物市「くしろ二十三や市」



1月24日・25日の2日間、串良総合支所周辺で「くしろ二十三や市」が開催されました。
市には、九州各地から、植木や花木、刃物、陶器、衣類などの露店が出店。朝早くから品定めをする多くの買い物客でにぎわいました。
また、消防音楽隊パレードやエイサー太鼓、歌謡ショーなども行われ、歴史と伝統ある行事を盛り上げていました。

地域とふれあい、交流を図る



1月13日、鹿屋養護学校で養護学校中学校の生徒と大浦町内会の交流会が行われました。
これは生徒と地域住民が活動を通してお互いの交流を深めることを目的として行われているもので、今年で3年目。
当日は絞り染めや、陶芸、木工等5つの班に分かれ作業を行い、お互い教え合いながら作品を完成させていました。

石破大臣がやねだんを視察



1月24・25日、石破茂地方創生担当大臣が、ユニークな地域再生で知られる「やねだん」を視察されました。
大臣は手作りの竹灯籠やダンスなどで地域住民から歓迎を受けた後、関係者と意見交換を行い古民家に宿泊。2日目は唐辛子畑など、自主財源を生み出している現場を視察。今後は国の進める「まち・ひと・しごと創生」への参考にしていくとのことでした。

交通安全を願って 手作りの餅を配る



1月28日、田崎小学校前の交差点で田崎小学校の5年生が、交通安全を願って手紙と餅をドライバーに配りました。
餅は児童が川西町の田んぼで育てた餅米をついて作ったもの。また「気もちに余裕をもって」など、餅にかけた交通安全標語を書いた直筆の手紙も同封。児童は「緊張したけどお礼を言ってもらえて嬉しかった」と話していました。

マスオさんが理想の家族を語る



1月17日、市文化会館で家庭教育講演会と鹿屋市PTA研究大会が開催されました。
家庭教育講演会では「サザエさん」のマスオさんの声優である増岡弘氏が理想の家族について講演。
PTA研究大会では、学力向上に結び付く親子の関わり方について協議したほか、子どものネットトラブルを防ぐために、家庭でルールを作ることなどが提言されました。

保健福祉フェスタを開催



1月17日、市文化会館で「第38回鹿屋市保健福祉フェスタ」が開催されました。
当日は、保健福祉功労者や、80歳以上で自分の歯を20本以上持つ高齢者に表彰が行われました。
また、鹿児島国際大学准教授のジェフリー・S・アイリッシュさんの福祉講演会では、自らの体験を交えたユニークな話に観客から大きな笑い声があがっていました。

レベルの高い作品が揃う



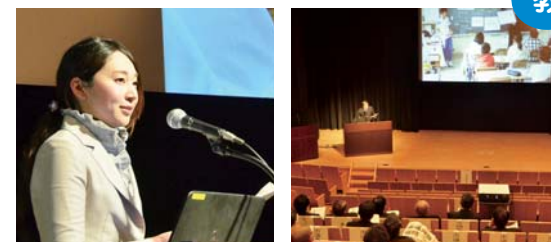
1月25日から2月1日まで、リナシティかのやで「第33回鹿屋市美術展」が開催されました。同展には県内外から6部門に178点が出品。石原琢次郎さんの屋久島の木を描いた洋画「年年歳歳一に」が市美展大賞を受賞しました。

遊休不動産の活用を学ぶ



1月30日から3日間、まちなかの駅一番館跡で「リノベーションスクール@鹿屋」が開催されました。
これは、遊休不動産の活用を通じた都市再生手法を学ぶもので、市内外から多くの受講生が参加。6人の著名な講師から空き店舗を稼働させる手法を学びました。また、最終日には、遊休不動産のオーナーに向けた公開プレゼンテーションも行われました。

鹿屋らしい学校教育を発表



1月29日、リナシティかのやで「学校教育実践発表会」が開催されました。
市の学校教育推進に関わる事業の説明やコミュニティ・スクールなどの特色ある教育活動の実践を発表。また、学力向上の先進地である秋田県の小・中学校、新聞社や福祉施設で研修を行った先生の報告等、自身の濃い充実した内容の発表に、約230人の参加者は真剣に聴き入っていました。

紺綬褒章を受章



1月20日、特攻戦没者の供養のために1千万円を鹿屋市に寄附された大阪府在住の坂口綾子氏が、公益のために私財を寄付した人に授与される紺綬褒章を受章され、その伝達が大阪市で自宅で行われました。

鹿屋工業高校生が看板を寄贈



1月22日、田崎中学校で木製看板の寄贈式が行われました。
これは、鹿屋工業高校建築科の3年生が約2か月かけて製作した看板を寄贈したもので、田崎中学校の体力づくりキャッチフレーズと校章が彫られています。